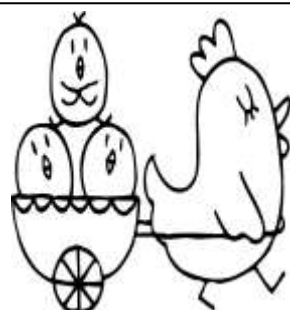


ひよこだより

草笛学園 2025年 9月号



暑さが厳しく、外あそびも心配な日々が続いていますね。体調には気を付けていきましょう。



心が揺れる「あせる」子育て

早期教育が浸透し、少しでも早く、「できる」ことがよいことだと思われています。乳幼児期から、字を教える、塾に行く、英語を教えるなどなど、上げればきりがありません。

学校では「ゆとりの教育」と言われていますが、乳幼児期の子どもをもつ親は、本来、ゆったりと子どもとつきあうことが求められる時期なのに、「ゆとり」から最も遠いところにあるようです。「しつけ」もできるだけ早いほうが効果的だと、子どもの発達の段階を無視して行うこともあります。

食事を行儀よく食べる「しつけ」は大切なことです。しかし、あたりまえのことですが、自分で食べるようになる1、2歳の頃は、好きなものばかり食べたり散らかしたり、ご機嫌が悪いとたべないなど、とても自分勝手な行動をします。親としては、食べ物に感謝し、好き嫌いなく何でもよく食べる子に育てたいと思いますが、この時期の子どもはその期待にはなかなか応えてくれません。大切にしたいのは、楽しくみんなで食事をするのですが、できるだけ早く「しつけ」をとあせり、嫌いなものを残したり、ごはんをこぼすと叱ってしまいます。結果、子どもは泣いてしまい、陰湿な雰囲気がただよい、楽しい食事が台無しになってしまいます。〈略〉

何でも早くから教えればよいのではなく、子どもの理解度や発達段階に応じた「しつけ」が必要です。

参考文献：『いつからでもやりなおせる子育て』 著：池添素

友だちの「三層関係」

子どもたちなりに、友だちを区別してとらえています。同じくらいの友だちには、「いいもの探し」を共有し合う存在であり、憧れたり、おもちゃを取り合ったりする仲間です。しかし、そんな身近な存在だけではなく、自分よりずっと小さいあかちゃんに興味を持ち出します。だから友だちにさしだしてあげたコップを、今度は同じクラスのあかちゃんにもプレゼントしてあげたくなるのです。しかし、その表情には、あかちゃんの反応への不安があるのか、緊張が隠せません。本当のおにいちゃん、おねえちゃんとしてかわろう

とするようになるのは、2歳になってからです。

ときどき、子どもがあかちゃんに興味をもち、その頬にかみついてしまうことがあります。これは、あかちゃんに興味がいってきただけで、あかちゃんとかかわる方法をもっていないからでしょう。プレゼントする方法を教えてあげましょう。

あかちゃんへの興味とともに、ひとつくらい年上のおにいちゃん、おねえちゃんのあそびに好奇心のまなざしを輝かせます。おにいちゃん、おねえちゃんがリズムあそびをしていると、トンボもカメも、してみたくなります。同じことができるはずはありませんが、憧れの心はますます高まるばかりです。

このように、①自分と同じレベルの友だち、②自分より小さい友だち、③自分より大きい友だちという3つに区分された友だち関係を求めるようになることを「三層関係の形成」といいます。この「三層関係の形成」は、子どもたちのもって生まれた願いです。

参考文献：『発達の扉・上』 著：白石正久

次のひよこ教室は…

ひよこ教室①…10月 4日（土）9：20～11：15

→からだあそびをします

◎持ってくるもの

着替え・お茶

ひよこ教室②…10月18日（土）9：20～11：15

→からだあそびをします

◎持ってくるもの

着替え・お茶

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。（おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください